

議 事 概 要

【第7回北陸地域連携プラットフォーム 平成27年6月9日(火)】

【メンバー】

新幹線の開業効果というものが思っていた以上に大きかった。最初は、ホテルや飲食業界も期待はしているけれども半信半疑なところがあって、事前の設備投資が少なかったという感じで非常に慌てている印象もあった。また、開業効果は金沢だけで終わるのではないかと冷ややかに見ていた加賀、能登にも効果が及んでいるということで、金沢以外の皆さんの目の色が変わってきているのかなという気がします。

気になるのは、キャパシティ、特に宿泊施設の少なさで、毎年来てくれていた大事な固定客が土日や秋頃の予約が全然取れないということも聞きます。しかし、それなら能登に泊ってみようか、福井まで足を伸ばそうか、或いは高岡に行こうか、そういうことで周辺に広がっていくことを期待しています。

今は新幹線の開業効果を消化しきれていないところがあって、今後1年ぐらいでうまく消化しリピーターを増やしていくことができるかどうか、それがもう一つ大きな課題だと思っています。

もう一つは、大変な人手不足が、今後、企業の誘致なりに足枷になってくるのではないかと非常に心配しています。

それから、長野新幹線では開業後数年でストロー現象が表れていますし、新潟もそうだったと思います。その辺も忘れてはならない気がします。

【メンバー】

一番必要なことは、現状において優劣をつけることではなく、それまでに何年かけて、どういうコンセプトでまちづくりをしてきたか、もてなしを含めたハード、ソフトの地域づくりをどのようにしてきたかということが検証されるべきことだと思います。

金沢から先については、福井先行開業論も一部であります。後年も見据えて福井らしさ、固有の資源をどう磨き活用していくかという戦略が一番求められる。そのあたりが国や県、各市町、民間においても全体のスクラムの組み方がまだできていない。では富山、石川がどう取り組んできたのかを学ぶ必要があります。新幹線効果について、観光を中心にデータを駆使してバックグラウンドをきっちりケーススタディしていくことが北陸全体の永続的な力を保っていく上で一番必要です。自治体が前のめりになっていますが、先が見えない中では、国、財務局や金融機関などと連携しながら取り組んでいくことがますます重要になってくると感じます。

もう一つ、「女性活躍」で言えば、女性がいかに女性らしく社会生活を営みながら社会の主役となっていくか、本当のソフト力はこれから問われていくと思います。地域活力の中で女性がどうパワーを発揮していくかを正面から見据えてやっていく必要がある。女性が主役であるために何が足りなかったのか、どういうシステム上の問題があったの

か。また、この成熟した日本の中で女性はどのような生活観・人生観を持っているのか、そういったことも含めてしっかり検証をしていくことが大事だと思います。

こうした女性の話や民活などの話をしていくと、どうしても一人一人の地域住民力が見えてこない。それをどう可視化しながら、地方を維持するために、どういう役割が必要になっていくかを「バックキャストिंग」し、将来を見据え、今できる知恵を出していくべきです。地域のマンパワーを掘り起こして全力で投入していくということが、一番の命題になってくるのではないかと思います。

【メンバー】

新幹線が開業するまでは、いかに早く開業させるかということを考えてわけですが、開業後のまちづくり、富山県づくり、北陸づくり、地域づくりをこれからは考えていかなければいけない。本当は開業前に考えて準備をしておかないといけないのですが、中々それが追いついていかないという状況だと思います。

新幹線が金沢まで開業したら、観光面では金沢の一人勝ちになるのではないかとこのことを富山県の多くの人達が思っていて、実際に金沢のほうは観光客が大変増加していると思いますが、街なかを歩いたりという観光の魅力という点で見れば、金沢市のほうが魅力が多いのは歴然としていると私たちは思っています。そういう街なか観光を、金沢を中心としながら、それを能登、加賀、富山、高岡、福井も含めて観光の魅力としてどのように北陸全体に広げていくか。更には、飛騨、長野、新潟というふうに広げていくことが大事ではないかと思います。

昨年、富山県では、新幹線の開業を見据えたこともあって、若い人も含めて県外からの移住が400人程いたということで、東京から富山まで2時間ぐらいで来れる、富山に住んでもすぐ東京に行けるというメリットを感じている人がたくさんいるのではないかなと思います。

そういうメリットを活かしていくためにも、国家公務員宿舎や空き家をいかに活用していくか。定住を希望する人には、ある程度賃貸住宅に住んで、うまくいけばそのまま住みつきたいという人も多いと思うので、国家公務員宿舎をそういう面で利用すれば定住促進にも繋がるのではないかと思います。

これからも、空き家や、児童の減少に伴う統合で、必要なくなる小・中学校の校舎が出てきます。現在でも大学の研究所としての活用や、地域で活用するところもあるので、財務局が政策投資銀行などと取り組んでいる公的資産マネジメントをこれからも進め、そういうことについて考えていくことが地方創生の一環として良いものになるのではないかと感じています。

【メンバー】

北陸新幹線が開業し、本数も多いことで当社でも女性が日帰りで東京に出張できるようになりました。女性の管理職を増やすということを言われている中で、それもそうかなと思いつながら、下期から女性の管理職を増やす予定にしています。女性管理職を増や

すとなると、企業としてはどうしても考えてしまうわけですが、女性の見直しができるようになり、この人はどうか、この人はどうかと、どちらかといえば事務職でと考えていた人達に対しての見方や考えが変わってきました。

それから、地方創生においてソフト面がとても大切になってくるのではないかと思います。ストロー現象が起きないように北陸3県に伝わっている伝統芸能、伝統工芸をもっともっと大切にして、住みやすい、また、旅行がしやすい安全、安心な地域にしたい。しっかりとおもてなしができる地域になるよう、一丸となってその方向に向かっていきたいと思っております。

【メンバー】

金沢駅の百番街の変わり様を見ましたが、富山のものも、たくさん置いてあることにほっとしました。

タクシーの運転手に、新幹線の開業で金沢はどういうふうになりましたかと聞くと、「1割から2割ほど忙しくなっているが、タクシー業界では旅行会社とタイアップした観光タクシーだけが忙しくて、一般のタクシーは夜もあまりぱっとせず、それほどでもない」ということで、反対に、「金沢で一番心配しているのは、今は金沢一極集中で、金沢の一人勝ちのように人は思っているけれど、3年後が不安」だと教えてくれました。

データをみて感じるのは、富山なら富山の、石川なら石川の、福井なら福井のそれぞれの良さがあるので、一人勝ちにならないように協力し合ったら息の長いものになるのではないかと。得意分野を伸ばして北陸3県が一体化する。私は富山にいて、災害も少なく安全で、本当に良いところ、住みやすいところだと思っているので、YKKの本社機能の一部移転のように、ものづくりでも全国で強みを活かせる県になれば良いし、伝統や芸能の面では歴史のある金沢と同じことはできないですから、それぞれが得意分野を活かし、富山は富山の良さを再発見していくという形をとったら良いと感じました。

女性の活用の件に関しては、私どもも、女性だからこそその繊細な気持ちや、男性にない良さが活かされる面もあり、チーフやリーダーに女性を増やしていますし、女性だからということではなく、会議にもミーティングにも出席させるよう取り組んでいます。

【メンバー】

新幹線開業後の福井県内の状況は、ゴールデンウイークの県内の観光地は、永平寺も、めがねミュージアムも売上げが最高だったという話があって喜んでおりましたが、先程の開業効果をみますと、本当に凄いなというのが実感で、今のところ福井まであと8年ということですがけれども、遺失利益を少しでも少なくしなければいけないと感じているところです。5年後の福井先行開業を目指して、そこに向けて福井県の経済界として取り組んでいるところです。

ただし、今日の話聞いて、新幹線が来れば良いという話ではなく、それまでの準備、金沢のまちづくりや、観光地のブラッシュアップなどの結果が観光客の繁栄を招いている。一方、福井をみると、まだまだ全然追いついていないというのが事実で、5年後に

福井に来るには本当に時間がない。何とかその間にまちづくりなり観光地のブラッシュアップなりを大急ぎでやらなければいけないのだろうと思います。そういった中、今の地方創生という中で観光地づくりというものが少し動き出していますけれども、スピード感を上げていかなければいけないと思っています。

もう1点、地方創生の中で産官学金ということを言われており、各自治体において第一回目の会合が開かれているような状況ですが、各自治体が独自色を出していくというのは中々難しいことだと思います。金融機関も知恵を出さないといけないのだと思いますが、色々な方の知恵や情報をいただき、そういったものの活用や、DBJにもお手伝いをしていただかないといけないと思います。やはりどれだけ新しいものをつくっていくかということが成功するかどうかの要になると思いますので、そういった意味で地域金融機関としても頑張ってもらいたいと思います。

【メンバー】

東京に出張してよく感じるのは、今まさに北陸の注目度が非常に高いなということです。いろんな方から、新幹線が開業して北陸はどうですかということ必ず聞かれ、また、色々なところで「北陸」と書いてあるものがみられるという状況にあります。

非常に注目度が高いということで、我々金融機関とすれば、それをどう北陸の発展に結び付けるかということだと思っており、今取り組んでいるのは、例えば大手の量販店では、北陸の隠れた名産品をどのようにして首都圏の消費者にアピールするか、集客するかということに非常に注目している。その中で私どもとしても、北陸の業者には首都圏での販路の拡大に資するようなサポートをしたいと思っており、首都圏の量販店に来る東京のお客様には北陸に興味を持ってもらい、ぜひ一度新幹線に乗って北陸に行きたいなと思ってもらいたい。それを結び付けたいと思っており、マスコミ等にも発表したいなと考えている企画もあります。

一過性で終わらせるのではなく、それを定例的に、例えば年1回、2回と毎年行う。その場合には北陸3県が一緒になる、富山だけの産品では少し品不足で、それに石川、福井が加われば、それなりの興味ある物が集まるだろうと思っています。例えば北海道の物産展をやると、全国どこへ行っても人がたくさん来る。そのお客さんが今度は北海道に行って現地で食べてみようかなと思うわけで、札幌にも山のように人が来る。それは色々な面でアピールしているのだろうと思っています。北陸でもそういう定例的なものにしていきたい、そのために金融機関としても力を尽くしたいと思って取り組んでいるところです。

【メンバー】

ある会合で珠洲の方が、揚浜塩田の塩が品不足になって困っているという話がありました。また、能登の旅館の社長は、関東圏からのお客様がこれまで大体11%か12%だったのが、5月ぐらいの予約では30%を超えたという話で、まさに新幹線効果というものが本当に大きなものだと思います。

新幹線効果で、観光客だけでなく色々な方が北陸を訪れる。北陸或いは能登の産品、農産物でも水産加工品でもマスコミのおかげで首都圏での露出度が高くなっており、そういうものも新幹線効果の範疇に入るのではないかと思います。そうすると、中小・零細企業の皆さん方もそういうものを大々的に進めていく、或いは地域金融機関の努めかなと思えました。

女性の活用という問題についても、石川県の経営者協会では尼崎市の女性前市長が講演をされ、その時に非常に印象深く聞いたのは、「女性に場を与えなさい。管理職であれ一般職であれ仕事を与える。もっともっと場を与えて女性の良いものを引き出す。そういう努力をなさい」という話が非常に印象深かったわけですが、これからの人材不足の中ではそういうものにも踏み込んでいかなければならないということを感じました。

【メンバー】

5月27日に、北陸新幹線建設促進大会、平成27年度北陸新幹線建設促進同盟会総会が東京で実施され、その後、北陸3県の知事をはじめ各県議会議員、北陸経済連合会会長等合同にて、自民党、公明党をはじめ財務省、国土交通省、総務省等に対し、中央要請を行いました。

今年度の要請においては、各県知事より、ゴールデンウィークのJRの乗車数が対前年比311%となり、新幹線開業による経済波及効果が非常に大きいという話がありました。財務局の資料「北陸新幹線金沢・富山開業の北陸経済への波及効果と課題について」の5ページにあるように、「ものづくりの産業集積」、「災害リスクの低さ」、「豊富な経営資源」といった北陸の利点に、北陸新幹線という新しい強みが加わったことを、要請先の皆さんにご理解いただけたものと思っています。

要請のまとめとしては、金沢・敦賀間の平成34年度末の確実な開業と、大阪までのフル規格による早期全線整備をお願いしてまいりましたので、皆さまにも、今後のご支援ご協力をお願いいたします。

次に、北陸経済連合会では、地域産業活性化に資することを目的に「北陸のシェアトップ100」という小冊子を作成しました。世界または日本国内で高いシェアを誇る105社、131製品の優れた技術を紹介したもので、学生に最も読んでいただきたいと思っています。まず、地元学生には地元で定着していただきたい。一方、地方創生のためには、東京一極集中を排除して地方に人を呼び込む魅力づくりが必要になります。人、企業の流れを大都市圏から地方に向け、北陸にはこんなに優良な企業があるということ認識してもらい、首都圏等に出た方にも北陸に戻ってきていただきたい。地方回帰に向けた視点が今後必要だと思います。産学官連携によって、より優秀な人材確保に取り組むことが地方創生の中でも重要なことではないかと思っています。

【メンバー】

新幹線に関しては、最近、街の中で西洋人の方を大変多く見るようになり、百万石まつりも大変な混み様でした。どこもかしこも満杯で我々も困っており、かなり前から予

約しないとお客様に来ていただけない。仕方ないので石川県内でも外れのほうに泊まっていたとということがありました。人手不足によって、期待して北陸に来た方がっかりして帰るといふことにならなければよいかと心配しています。

新幹線以外では、北陸のものづくりが世界でも注目されていることは確かで、韓国のテレビ取材を受けたこともありますし、中国の済南市で同じようなクラスターをつくらうという話もあると聞きます。それだけ北陸のものづくりが世界から注目されている大変希有な存在だということですから、そこに自信を持つ、それを育ててきた産業の一つが繊維産業なのですが、自立化率が低いという面もあります。

アベノミクスの中、企業を取り巻く六重苦の一つに円高があり、今は逆に円安で苦しんでいる。特に繊維産業は、これまでの歴史で為替に大きく左右されてきた産業で、プラザ合意以降、北陸の繊維産業はかなり淘汰されてしまいましたが、昨年あたりから元気を取り戻している企業が多い。経済産業省の色々な資金援助がありますけれども、少し潮目が変わったなという感じがしています。

中国でニューノーマルという言葉で盛んに言われているのは、「大量につくって安く売る」モデルから、「しっかりと品質を保って価値の高いものをつくらう」ということで、北陸の繊維産業が元気を取り戻しているのは、海外で売れ、一度買った人に、日本製品の品質も含めた価値が高いところが見直されているわけで、これは定着するのではないかと、円が高くなっても残るのではないかと思います。

ヨーロッパの繊維産業もここ2年ほどで元気を取り戻しており、日本の機械を購入しています。これもヨーロッパでつくる品質の良いものが見直されてきたということで、そういう意味では、繊維産業だけではなく北陸のものづくりの技術力、価値、品質というものが見直されてくる、これからそういうところに力を入れたいと思うので、行政のバックアップをいただきたいと思っています。

もう一つ。今まで中小企業支援という言葉が使われていましたが、中小企業を支え、一緒にやるのは中堅企業ですから、中堅企業に対しても中小企業と同じようなレベルでの支援や、価値を認めるようなこともお願いしたいと思っています。

【メンバー】

金沢まで新幹線が来る前、東京の方に、北陸に新幹線が通りますから福井に来てくださいという話をすると、よく理解していただきました。後で話を聞くと、福井と金沢と富山の位置を明確に分かっていないわけです。それを逆手にとって、福井は北陸にありますから金沢まで新幹線で来ればもうすぐですよというふうに話しています。これは福井の負け惜しみではなく説得力がある話なわけです。

ですから、福井は福井なりに努力していく、福井らしさを追求していく、そのところをないがしろにはしてはいけないということを考えています。

新幹線効果ということで、福井の設備関係の方から長野で仕事がとれたという話を聞きました。何かあった時にすぐに行けるということが売込みの殺し文句になったということで、そういう新幹線効果も色々出てくるのだらうと思います。福井にはIT関係の企業も結構あり、関東地域で仕事をとっていることが多い。新幹線がとにかく早く福

井まで来てほしい。格段に関東への出張が短くなるので大歓迎だと話していました。

それから、北陸3県が広域で一緒に取り組んでいくことが大事だと思いますが、それができていない一番象徴的なことが並行在来線です。どうして各県毎に会社をつくって県境で切れるのか。福井から富山へ行くのが非常に不便になっています。どうしてそういう課題が俎上に載らないのか。こんな素朴な疑問もこういう席で議論していただきたいと切に思っています。

【メンバー】

北陸新幹線に関しては、福井としては何とうらやましい話かと思って聞きました。負け惜しみではなく、石川県、富山県ができなかったこと、思いを遂げることができなかったことを福井ではできるようにもっていかなければいけない、そのようなことを思いながら聞かせていただきました。

新幹線開業は非常にうらやましいわけですが、福井県には今何が一番必要かという話になるとアベノミクス効果だろうと思うとともに、その効果拡大に対して、福井には福井独自のやり方があるかと思っています。エネルギー問題に関しても燃料資源のほとんどを輸入に頼り、円安で高い物を仕入れながら物をつくっている状況です。政府からはクリーンエネルギー、特に水素社会にしようという考えが出ていますが、これは電力でつくるしか方法はありません。石油等で水素をつくっているようではエネルギー・省エネ効果もありませんから、福井県は福井県の立場で取り組み、考えていかなければならないと思いました。

【メンバー】

富山県民は新幹線の開業について、決して金沢の一人勝ちで良いとは捉えていませんし、富山にも波及効果は及んでいると思っています。

首都圏と地方都市ということに関して、「エンジン01文化戦略会議」というものが富山で開催され、新潟市の篠田市長の話聞いた際、首都圏に生活している人と地方都市とでは生涯収入が6,500万円ぐらい違うという話がありました。先ほどの財務局の資料をみると、年間の生活コストの差は150万円から200万円、経済的な側面で見ると40年ほどでフラットになり、首都圏の生活も地方都市の生活もそういう意味では同じということです。

そうは言いながら、地方からの転出が続いているというところを考えていかなければいけない。「暮らしやすさ」のような指標が出ると非常に高い。これは物理的な側面だけではなく、情緒的・文化的な側面、或いは仕事のやりがいといった定量化できないところをしっかりと捉えておかないとまずいと思います。

仕事の面でのやりがいに関して、労働生産性の低さというのは額としての低さです。仕事量として低いわけではなく、下請や部品という最終製品ではないという産業構造が額としての生産性の低さに繋がっている。経営者自身がマインドを変え、ブランド化、高付加価値によって高単価にもっていくことを意識しなければいけないと思います。

生活の面での情緒ですが、やはり多様な文化を楽しめる環境にあるかどうかというところで、首都圏或いは東京での生活者と我々の間に大きな差があることは否定できない。先日、富山市の森市長が仰っていましたが、富山と金沢は新幹線で20分で繋がれているのだから金沢の21世紀美術館を富山のものだと思えば良い。富山には来年ぐらいに国宝級、重文級の刀が集まった刀剣の美術館ができると思いますが、金沢からも20分で訪れることができるわけです。そういうエリア内での文化的な一体化を考えていただきたい。メディアの方には、両方の県民・市民が広くそういう情報に触れられるような形にしていきたいと思います。東京も日帰り可能なわけですから、上野の博物館や有楽町の劇場も我々のものだというぐらいの考え方をして、田舎暮らしでありながら2時間少しで東京に行けるということ、この地域で暮らすことのすばらしさをメディアを通じてもっと発信できれば、みんな気が付いていないことができるような気がします。

ずっと富山に暮らしている人間は「何もないところ」と思っていますが、例えば親戚や友達が新幹線で富山に来ると「こんなに良いところがある」と言われ、それで富山県民自体が知るようになりました。森富山市長の言葉ではシビックプライドと仰っていましたが、凄く大事なことで、こんなに良いものがあるということ再認識することは本当に素晴らしいことだと思うので、これを活かして地域づくりを進めていかなければならないと思いました。

最後に、我々は産業界ですから人手不足ということを考えます。産業構造として企業数が多過ぎる。小規模企業が多過ぎることが労働生産性を低下させている大きな要因ではないかと思っているので、統合やM&Aを含めて、ある程度中堅企業化をしていくことが必要ではないかと感じています。

【メンバー】

先週、高山の方を訪れたところ、日本三大朝市の一つということで、かなりの観光客で外国人の方も多く訪れていました。土産物屋を見ると「朴葉みそ焼きはこうやって食べるんです」というのが全部英語で書いてある。中国語、台湾語、ハンゲルで全部説明していますし、そのエリアは全てフリーWi-Fiになっており、きっちり整備されていました。

また、先月は、「まれ」のロケ地や珠洲の方にも行きましたが、凄くきれいな海があって、ランプの宿という東京の一流ホテルぐらいのグレードのホテルがある。そんなところがあることは知らなかったわけですが、行き交う車の多くが富山の「わ」ナンバーでしたから、高岡、新高岡で降りてレンタカーで訪れているというところがみえ、新高岡駅に寄せていただいた際には、広大なレンタカー置き場のほか駐車場もかなり整備されていました。

高山は何年も前から街の整備に取り組んでいましたし、能登の自動車道の無料化、高岡の駅前整備というのも前倒し前倒しでしっかり準備している。どういうお客を想定して、どうやって来るか、誰と来るかということを見据えていることを感じました。

今、地方の総合戦略をつくるということになっていますが、これまで総合計画の策定委員会などにお邪魔させていただくと、住民課から上がってきた話、総務課から上がつ

てきた話というふうな縦割りで決まっている。どういう人を主体に想定しているのかがみえない。家族を持っている高齢者の方か、壮年層の方か、一人暮らしの方なのかというところがみえてこない戦略づくりをしても、総花的なものになり、つくりましたという既成事実だけということになるのではないか。戦略をつくるのであれば、民間企業では当たり前のこととして、どういう方に買ってほしい、だからCMは何時の時間帯に何の番組の後に打つかということを考えるわけですが、そういうところが地方には足りないと感じています。形だけではない総合戦略に仕上げしてほしいと思います。

【メンバー】

2年前に新幹線の開業効果について、石川県 124 億円、富山県 88 億という数字を出しました。この数字は、両県を訪れる方が同じ行動様式をした場合、入り込みが 3 割増えたらどれだけの効果があるかということを示したもので、例えば兼六園だけみて帰っていた方が、新幹線開業後には、2、3カ所を回遊して帰るようになるといった相乗効果を見込んでいない上振れを前提とした数字であります。兼六園の入りが 1.6 倍とありましたが、そういう意味では想定以上の順調な滑り出しで、行政、経済団体一体となった様々な準備活動の成果であると敬服してきているところです。

この次に何を考えるかというところで、昨年秋、地域創生が動き出した頃、全国の経営者から「どういう期待を寄せますか」という生の声をいただき、10 項目ぐらいにまとめて政府・与党に要望を出させていただきました。一番多かった声は「ミニ東京をつくってもしようがない。地方はないものねだりをするのではなく、持っているものを最大限に活かす。政府にはそれを本気で支援してほしい」といった内容でした。その意味では、逆説的に申せば、どれだけ地域資源を本気で活かしているのかというところが一つポイントになるのかなと思っています。

例を挙げると、毎年、金沢大学と 1 本レポートを書いています。この 3 月に出したものは、能登観光についてのレポートです。「能登に住んでいる方 200 人に聞きました。首都圏に住んでいる方が能登に対して持っているイメージは何だと思いますか」と聞くと、都市部から遠いとか地味だとかネガティブな声が多く出るわけですがけれども、逆に「首都圏で能登に観光で行ったことのない方 400 人に聞きました。どんなイメージをお持ちですか」と聞くと、地味とか遠いとかというネガティブな声は結構低いわけです。

一方で、「能登に来たときにどういったところを見てほしいですか。観光スポットを挙げてください」と地元の方に聞くと、青柏祭をはじめ色々と挙がるんですけども、首都圏の方に「どこに行ってみたいですか」と聞くと 5 割近くの方が一つも知りませんと言う。前向きに考えれば伸び代がいくらでもあるということで、もっと積極的な活動をすることで効果を何倍にもできるのかなという期待を持っています。

【竹田局長】

我々も色々な問題を投げかけながら、地域で議論し、その中から良いものを一つでも発信していきたいと思っています。

新幹線の効果については、財務局長会議の場で財務省の幹部にしっかりと状況を伝えております。その際には、特に企業活動への影響というところが重要になってくるのだらうと思いますので、そういった点を中心に引き続きしっかりみて、その効果をはかっていく必要があるだらうと考えておりますので、そういう点を教えていただければと思います。

企業活動のところでは、人材の問題が多く、単なる量ではなく質的に高い人材を確保することが大事ではないかと改めて思っています。まち・ひと・しごと創生本部に国土交通省から出向された女性幹部がいらっしゃいます。この方とお話をさせていただいた際、北陸の企業は「B」to「B」の企業が非常に多く、その結果、企業名を知らない、要するに知名度が低いということになる。最近の学生の就職の行動を特に左右しているのは、本人よりも母親というお話がありました。我々も北陸の企業の知名度を上げるための情報発信をしていきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

【座長】

昭和39年に東海道新幹線が開業し、米原から在来線に乗り換えると、まさしく裏日本へ行くという感じでした。北陸新幹線に乗り、最初に感じたことは、日本海側もようやく表日本になったということです。

もう一つ、本日のテーマは追い風です。北陸新幹線が計画された際、地方創生ということは誰も考えていなかったと思います。ですから、北陸新幹線は北陸地方にとってまさしく追い風だと思います。北陸新幹線の効果は、北陸3県で程度の差はありますが、3県ともにあることは間違いないと思いますし、同時に課題も皆さんが指摘されたとおりにあると思います。その課題を克服し、持続的に地域の産品を磨く、ものづくりを磨く、そして、それを含めたまちづくりに取り組むことが非常に大事なことだと思います。

そのために必要なこととしてたくさんのご意見が出ましたが、北陸3県が広域で協力し、むしろ日本政府に先取りして、北陸3県は一つの北陸州になるということではないでしょうか。いつまでも江戸時代の幕藩体制を原型とする都道府県にこだわることをブレイクしなければいけないのではないかと強く感じました。そして、本当の意味で、政府がカネを出すのではなく、国の役割と地方自治体の役割を明確にして、地方がもっと自由にできるように日本の国の形を変えていくべきだと私は強く思いました。

以上